

活動状況等報告④ 環境学習



斐伊川水系 水鳥プロジェクト

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

1. 環境学習ワーキング報告

(1) ワーキング開催概要

2025年6月25日に、小学校の先生や環境学習の担い手をまじえ、今後の環境学習の推進に向けた取組について意見交換を行った。

日 時	2025年6月25日（水）14:00～15:40		
場 所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室（オンライン併用）		
参加 メンバー	雲南市立西小学校 校長	妹尾 義則	
	出雲市立神戸川小学校 校長	樋野 育司	
	矢田醤油店	矢田 敦子	
	キコニアまなびネット 代表	和田 邦子	
その他	協議会参加自治体の関係部署、環境省、農林水産省		
	国土交通省 出雲河川事務所		
	（公財）日本生態系協会		
議題	・ 全体構想と環境学習ワーキングについて ・ 環境学習の推進に向けた課題と今後の展開方策について ・ 2025年度以降の展開について ※ この他、島根県立情報科学高校との連携についても報告を行った		



(2) 主な議事内容

◆環境学習の推進に向けた課題と今後の展開方策について

環境学習の推進に向けたこれまでの取組について、報告を行った。

取組1 環境学習プログラム集の継続的配布、活用の働きかけ

流域の環境学習を推進する団体のプログラムを集めた「環境学習プログラム集」（右図）を、流域の小学校や公民館等に配布。イベント等でも展示・配布し周知を図った。

この他、市町の教育委員会を対象にプログラム活用に向けた情報収集を行ったり、公民館関係者の会合の場を利用し活用の働きかけを行った。



プログラム集

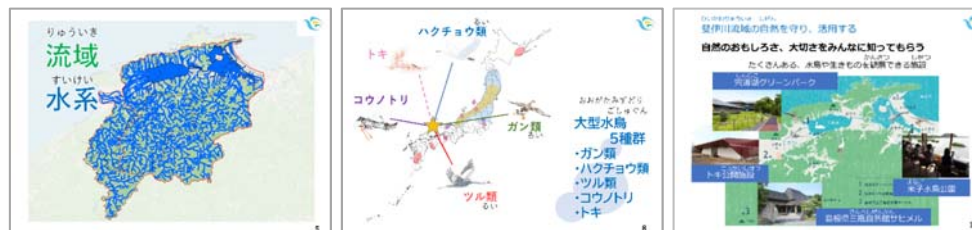
取組2 ウェブサイトでの発信

水鳥プロジェクトのウェブサイトにて環境学習に関する情報発信サイトを設け、以下を掲載し、環境学習の取組について周知を図った。

- ・ 環境学習プログラム集や学習ツールの一部
- ・ プログラム活用事例（水鳥プロジェクトの取材による）

取組3 環境学習の実践者へのツール等の提供やサポート

学校の授業や地域住民を対象としたイベントでの活用を目的に、これまでに作成したツールを紹介した。



授業で活用を目的としたパワーポイント教材の作成



安来市での環境学習イベントを、企画検討や資料作成等でサポート

◆環境学習の推進に向けた課題と今後の展開方策について（続き）

今後の環境学習の推進に向け、現状をもとに課題を3つ設定し、それぞれについて、考えられる要因や解決に向けた方策について意見交換を行った。

課題	現状
1. 環境学習プログラム集の活用について	環境学習プログラム集が、各教育機関の環境学習のメニュー選びにうまく活かされていない
2. ツールについて	環境学習を直接サポートするためのツールが十分に活用されていない
3. 環境学習実践者へのサポートについて	環境学習実践者への効果的なサポート内容が不明

◇ワーキングメンバーからの意見等

1. 環境学習プログラム集の活用について

- これまで圏域の複数の小学校に行き、学校の先生とプログラムの活用について話をしたことがあるが、プログラム集を知っている人に出会ったことがない。広報の方法を見直す必要があるのではないかな。
- 出雲市は大型水鳥の一つであるトキを本格的に推す方向で政策が進んでいるが、市民はどれだけ盛り上がっているのか疑問であるし、小学校の授業に浸透している段階には至っていないと感じている。それぞれの学校には既存のカリキュラムがあり、ここに新たなことをやってほしいと入っていくのは中々難しい。
- 中長期的な課題ととらえ、学校の先生にプログラムやツールの有用性を浸透させることを目的に、例えば教員研修の機会を使いアピールする等が考えられる。
- まずはこの分野に興味を持っていただくことが重要だと思うので、小学校に限らず、保育所、中学校や高校など、少し対象を変えてみるのはどうか。
- 高校であれば、「地域探求」の単元がある。生態系ネットワークについて自分達で調べることで新たな発見、それをまた他の人に普及させるといったことができるのではないかな。

2. 教材・ツールについて

- 現在作成された学習教材や、紹介された全国の教材事例については、わかりやすい資料が多く揃っていると思うが、総合学習の基本が「子どもが探求的に学習していく」であることから、子どもが手に取って調べるには言葉使いが難しいかもしれない。
- 一方、出雲市のトキ、雲南市のコウノトリの教材は、元々学校の先生が関わられて作ったものだけあり、この点がわかりやすくできている。
- 課外活動でバスを利用することがあるが、この時に視聴できる動画があれば、直接授業に使うことは難しいかもしれないが、子どもたちの目に動画という形で情報を提供できるかもしれない。

3. 環境学習実践者へのサポートについて

- デジタルデータの環境学習教材の提供はありがたい。また、水鳥パネルのような展示物とセットでアシストしてもらえると、より参加者にわかりやすく伝えることができるようになる。
- 環境学習の授業を行う際、パネルを借りることは可能か。
→体制について検討する（事務局）

今後の方向性

プログラム活用に向けた教育機関への働きかけ（継続）

- プログラム集、ウェブサイトを通じた働きかけの他、教員研修や学習部会の場合等を活用し、大型水鳥類を活用した環境学習の魅力や有用性について周知を図る。
- 高校等、小学校以外の教育機関、保育所を対象とした働きかけについても、広報の方法を含め展開について検討を進める。

環境学習の担い手が使いやすいツールの開発・提供方法等の検討

- 大人（教員を含めた環境学習の担い手）だけでなく、子どもが直接手に取って使いやすい、わかりやすいツールの開発を進める。
- 提供可能なツールについても、使いやすさを重視した貸与体制について検討する。